

魚の“旬”をお知らせします！ 魚市場水揚げ通信

石巻魚市場 編



宮城県東部地方振興事務所水産漁港部
「みやぎ水産の日」PR広報紙 vol.30(2) (平成30年1月30日発行)

平成30年がスタートしました！

本年も、本紙をご覧になっている皆さまが、石巻魚市場を実際に見学しているような紙面づくりに心がけていきますので、どうぞよろしくお願ひします。

今年の正月初売り式は1月5日の朝7時から行われました。須能社長からは、「今年も順調に水揚げを確保し、業界に貢献していく」との挨拶がありました。

この大勢の方々のご努力下、石巻産の魚介類が県内はもとより全国に流通していることを改めて実感しました。



須能社長



平成30年1月5日初売り式の様子

今月の水揚げ状況

今年も水揚げがスタートしましたが、荒天により底びき網の出漁が少なくなっていますので、毎日の水揚げは定置網が主体となります。(ただ、荒天により定置網も網起しが出来ない日があります。)

この冬期間に昨年より水揚げを伸ばしている魚種の一つにヤリイカがあります。平成29年12月は553トンと前年同月比で約2倍の水揚げ量となっています。スルメイカは産卵のため東シオ海まで回遊しますが、ヤリイカは深いところと浅いところを行き来する深淺活動が主体となります。このローカルなヤリイカは高級イカの定番であり、調理してもスルメイカと違い、皮も剥きやすく、上品な甘みの特長です。この増加の要因は水温上昇がヤリイカの生態に影響しているともいわれています。不振なスルメイカに代わるヤリイカの漁模様に今後も期待したいと思います。

定置網

魚市場への入港時間は、網元が市場へ連絡しますが、分狂わず時間ピッタリに着岸します。すると、手際よく水揚げが開始されますが、場内へ移送するベルトコンベアーに大小様々な魚が流れる様子はまさに圧巻です。また、タモ網の動きをぬって魚をツマミ食いする鳥の動きも見事なものです。

取材した1月16日は、マイワシを主体にマダラ、ヤリイカなどが水揚げされていました。



マイワシ



マダラ



ヤリイカ

底びき網

沖合底びき網は主に金華山より沖で操業するため、荒天の影響を受けやすく、1月16日現在で、1月期の出漁日数は4日間。

水揚げされた魚は、冬にお馴染みのマダラ、ヤリイカ、キアッコウなどが見られました。魚市場職員に聞いたところ、年が明けてから、ようやくマダラの水揚げ量が増えてきたとのこと。マダラも大きさによって名称が違います。大サイズから「マダラ」→「豆タラ」→「豆ピン」→「豆マメ」となります。(写真にあるのはマダラです)この時期のタラ鍋は最高です。



マダラ



ヤリイカ



キアッコウ



ミスダコ



マサバ



スルメイカ



アカガイ



ケガニ



アイナメ

沿岸小漁

魚市場の西側に水揚げされる沿岸小漁は、刺網や小型定置網、カギ捕りなどで水揚げされる魚介類で、冬場に旬を迎えるナマコやアワビ、サヨリなど、季節感に溢れています。まだ、春を感じる魚は見られません。春はまだまだ先のようです。昨年、漁獲量が増え、報道機関も注目したマダコは漁獲量が減少し、終盤を迎えています。



ナマコ



アワビ



サヨリ



マダコ



ソイ



マトウダイ

活魚

買受人に人気があるホシガレイやヒラメが多数上場されていました。幻のカレイといわれる「マツカワ」の姿も見られました。身は厚くて白身、程よく脂が乗っている美味な魚です。刺身や寿司、煮付けやムニエル、フライなど何でもいけると評判です。



ホシガレイ



ケガニ



ヒラメ



エゾイソアイナメ
(通称: ドンコ)



マツカワ



シャコ

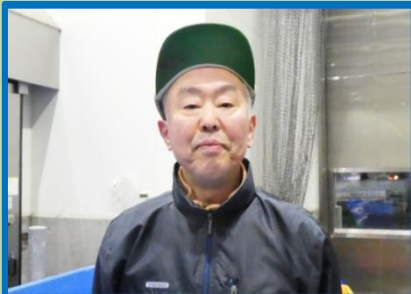
今月の注目魚種

ホシガレイ

活魚水槽を見ると、30cm程度のホシガレイが多数水揚げされていました。魚市場職員の話によると、「最近、このくらいのサイズがよく水揚げされる」とのこと。ちょっと前までは「幻の魚」といわれていたホシガレイですが…。県では平成7年から漁業者と一緒にホシガレイの稚魚を放流していますので、その効果かもしれません。ちなみに、昨年は当管内に1万7千尾を放流しています。



石巻魚市場で働く方々から今年1年の抱負をいただきました



株式会社 魚長商店
代表取締役社長 阿部 長一郎さん

平成29年は戻りカツオの終漁が早まったり、サンマが痩せているなど、漁模様が良くなく、また、魚の単価も高かったと思います。平成30年は質の良い魚がバランス良く水揚げされるよう期待しています。



株式会社 三政商店
代表取締役 三浦 政洋さん

水揚げは海の様子次第なので、なるようにしかならない。しかし、どのような状況も受け止められるような経営を行っていききたい。



株式会社 石巻丸鮮
代表取締役 平塚 隆さん

平成29年の水揚げは、マダコとヤリイカに救われた感じであった。平成30年は多くの魚種で水揚げが増加するよう期待しています。



一般社団法人 漁業情報サービスセンター東北出張所
所長 高橋 清孝さん

平成29年はサンマの水揚げが減少するなど変化がありました。石巻魚市場に水揚げされる魚を間近に見ているので、その時の旬の情報をこれからも提供していきます。



大栄丸（小型底びき網漁業）
船主 安海 政博さん

平成30年も昨年と同様に魚が獲れば良いと思います。安全操業で頑張ります。

編集後記

◆ 冬期間の調査ですが、新しい魚市場は衛生対策から施設が閉鎖されているので、意外と寒くありません。また、夏場は屋上のファンが回っているので涼しく感じ、新しい魚市場は、場内で働く方々にも配慮された施設であると感じています。
今年も引き続き魚市場通信を発行していきます。水揚げされる魚の状況にプラスして、その魚種の資源動向もお知らせしたいと思っていますので、1年間どうぞよろしくお祈りします。(K.O)

[お問合せ先]

宮城県東部地方振興事務所
水産漁港部

TEL:0225-95-7914, 1473